　那珂川市下水道排水設備技術基準

１　総　　則

１　目　　的

　　この基準は那珂川市下水道の排水設備（水洗便所を含む）の設計及び施工について

　の技術上の基準を示すと共に、これら工事の設計審査及び完成検査の適正な施行を図

　ることを目的とする。

２　排水設備工事の範囲

　　排水設備工事とは土地及び建物から排出される下水を下水道に流入させるために必

　要な排水管渠その他の排水施設（し尿浄化槽を除く）を新設、増設、改造及び修繕す

　る工事をいう。

３　用語の意義

　　この基準に用いる用語の意義は次に定めるところによる。

|  |  |
| --- | --- |
| 汚　　　　水    雨　　　　水 | 下水を下水道に流入させるために宅地内の排水管渠の最下流で、  宅地直近の公道に設ける桝をいう。  水洗便所・台所・風呂場等生活に起因する排水、若しくは工場・  事業場の生産活動に起因する排水をいい、原則として次の分類  表のとおりとする。  雨水・雪どけ水などの汚水以外の排水をいい、原則として次の  分類表のとおりとする。 |
| |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 下水道法上の種類 | | 発生形態による分類 | 下水の種類 | | 下水 | 汚水 | 生活若しくは事業に起因 | し尿を含んだ排水 | | 雑排水 | | 工場・事業場排水 | | 湧水 | | 雨水 | 自然現象に起因 | | 降雨、雪解け水 | | |
|  |  |
|  |  |
| 管　　　　径      　　封　　　　水        　　器具排水単位 | 原則としてJIS又はHassの公称内径（呼び径）をいう。  衛生器具内に内蔵するか、又はそれらの付属品若しくは、排水系統中  の装置として、その内部に封水をもち、排水の流れに支障を与えるこ  となく、同時に配水管内の空気が排水口から室内に逆上昇してくるの  を阻止できるものをいう。  各種衛生器具に適応した形状及び構造をもった付属トラップをいう。  排水管、下水管等からの臭気、下水、ガス、ねずみ、昆虫類が室内に  侵入するのを防止するために、トラップの内部に保持してある水。  トラップ下流あふれ部の下流内面（ウェア）とトラップ底部の内面（デ  ィップ）間の垂直距離をいう。  便器から第一桝までの管をいう。  便器を洗浄するためのタンク類、洗浄管等の総称をいう。  洗面器の最大時排水量を28.5㍑／minとしてこれを器具排水単位１と  定め、この基準で各種器具の数値を定めたもの。  桝を設置することが困難な場合に、管の点検及び掃除のため設けるも  の。 |

２　使　用　材　料

１　使用材料の規制

　　排水設備工事に使用する材料はすべて次に定めるものとする。

1. 衛生陶器

JIS－A5207表示許可工場及びBL部品認定の製品とし滑らかで、かつ、不浸透

性の表面を有し、常に清潔に保つことができるもの。

1. 洗浄装置

洗浄装置は不浸透性かつ、堅ろうでくり返し使用に耐えるもの。

1. 給水装置

給水工事用材料は春日那珂川水道企業団の器具検査に合格したもの又はJIS規格

品であること。

1. 排水管渠

排水管渠の材料は耐圧、耐水、耐久性のもので次にかかげるもの。

コンクリート管　　　JIS A 5302 鉄筋コンクリート管

　　　　　　　　　　JIS A 5303 遠心力鉄筋コンクリート管

陶　　　　　管　　　JIS R 1201　普陶管（直管）

JIS R 1202　　〃　（異径管）

　　　JIS K 6741　一般管及び薄肉管

Hass 207　　　配管用継手

ゼット、パイプ　　　　　　　　　　　（直管）

鋼　　　　　管　　　JIS G 3452 配管用炭素鋼鋼管

　　　　　　　　　　JIS B 2303 ねじ込み形排水管継手

　　　JIS G 5525 排水用鋳鉄管

鉛　　　　　管　　　Hass 203 排水通気管及び洗浄鉛管

　　　　　　　　　　JIS H 4311 鉛管

　　　　　　ＪＩＳ　　（日本工業規格）

　　　　　　Ｈass　　 （空気調和・衛生工学会）

1. 桝

原則として市が承認したコンクリート桝、化成品桝及び小口径桝とする。

1. その他の材料

市が認めたもの。

３　設　　計

１　事前調査

　　排水設備工事の設計に際しては、次の事項について事前に調査確認すること。

1. 施工場所が処理区域（供用開始区域内）か処理区域外かの確認
2. 公共桝の有無、下水道本管及び公共桝の深さ、宅地内既設排水管渠の状況（勾配、

　　配管の良否、水洗便所の排水に耐えうるか。）

1. 所有権又は管理権などの権利関係の調査及び同意等の確認を特に入念に行うこと。

（ア）他人所有の土地に排水設備を設ける場合。

（イ）他人が設置した排水設備に接続する場合。

（ウ）他人所有の建物に排水設備を設置する場合。

（エ）私道排水設備助成申請をする場合。

２　排水方式

1. 排水方式は原則として自然流下方式による。ただし下水本管より低所の排水は汚

水排水槽（貯留槽）を設けて機械排水（ポンプアップ）によること。

1. 汚水と雨水を完全に分離し汚水は汚水本管に、雨水は雨水本管又は側溝・水路等

へそれぞれ放流すること。

1. アパート等のベランダ排水は雨水として扱う。ただしベランダに洗濯機等を設置

する場合は、汚水管を別に新設しなければならない。

1. 屋外に設けられた洗濯場、足洗場は原則、汚水排水として扱う。ただし、雨水が流入する場合は雨水排水として扱い、洗剤等は使用しないこと。
2. 給水管が庭、植木等の散水だけに使用する場合は、雨水排水とする。
3. 受水槽のオーバーフロー水、連結送水管・電気浄水器等のドレン排水（冷却水）は汚水として扱う。
4. ゴミ置場の排水は汚水とし、雨水の侵入がないよう屋根を設置すること。
5. し尿等の汚水とその他の汚水（雑排水）は、建物内で分流すること。
6. 営業など井戸水を多量に使用する場合は、揚水ポンプに計測装置を取付けること。
7. 宅地内の池は雨水接続とすること。

３　設計図面の作成

1. 設置場所見取図

設置場所見取図は大字、丁目、番地のほか公共施設等わかりやすい目標を記し、できるだけ簡単に書くこと。

1. 平面図

平面図はスケッチをもとにして排水設備設計図凡例に従って（縮尺1/100以上）

　　　作成すること。平面図には排水器具の位置、桝の種類（汚水桝、雨水桝、トラップ

　　　桝等）桝間距離（桝の中心から中心まで）、勾配、桝№、排水管径、流下方向、敷地

　　　境界線、公共桝及び下水道の位置等を記入する。なお、２階以上の建物においては

　　　配管立図又は各階平面図を作成すること。ただし一般家屋の場合は立管の位置及び

　　　器具個数の記入のみでよい。

1. 縦断面図

原則として不要。ただし市係員が必要と認めたときは、基準線、地盤、管底、

　　　桝深（雨水の場合は泥だめの深さも記入）、管径、勾配、桝間距離（桝の中心から中

　　　心まで）を記入し、添付すること。

1. 構造詳細図

現場打ち桝、トラップ桝等の規格外のものを設置しようとするときは構造詳細図

を書くこと。

４　排水管渠

1. 排水管渠の選定は、汚水の水質、水量、布設場所の状態、載荷条件などを考慮し

　て決定する。

　　排水管の構造は原則として暗渠とするが、雨水のみ排水するときは開渠とするこ

とができる。

1. 管　径
2. 管径は条例の定めによるほか、排水量が特に多い箇所は附表１による。

（附表１）

|  |  |
| --- | --- |
| １日排水量（㎥） | 管　　　　径　　（ｍｍ） |
| １，０００未満 | １５０以上 |
| ２，０００　〃 | ２００〃 |
| ４，０００　〃 | ２５０〃 |
| ６，０００　〃 | ３００〃 |
| ６，０００以上 | 上記の率で管径又は本数を増加する |

1. 屋内管渠の管径は、接続される器具排水単位等により合理的に定めなけれ

　　ばならない。附表２及び３を参照のこと。

　（附表２）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 管　径  m/m | 許容し得る最大排水器具単位数 | | | | | | |
| 屋内排水横主管  排水管の勾配 | | | 排　水  横枝管 | 枝管間隔２以内の立管 | 枝管間隔３以上の立管 | |
| １枝管間  隔毎に | １立管  につき |
| １／１００ | １／５０ | １／２５ |
| ３０  ４０  ５０  ６５  ７５  １００  １２５  １５０  ２００  ２５０  ３００  ３５０ | ○　２９  ２１６  ４６８  ８４０  １，９２０  ３，４８０  ５，５８０  １０，０００ | ８  ２１  ○　３２  ２６０  ５７６  １，０００  ２，３００  ４，２００  ６，７００  １２，０００ | １４  ２６  ○　４３  ３００  ６９０  １，２００  ２，７６０  ５，０００  ８，０００  １４，４００ | １  ４  ７  １３  ●　２４  １９２  ４３２  ７４２  １，７００  ３，０００  ４，７００  ８，４００ | １  ３  ６  １６  ○　３４  ３００  ６５０  １，２００  ２，５５０  ３，９００  ５，７００  － | １  ２  ６  １０  １４  １００  ２３０  ４２０  ８５０  １，３００  １，９００  － | ２  ８  ２４  ４９  ７０  ６００  １，３００  ２，２００  ４，４００  ６，８００  １０，０００  － |

　　　　　　　　　　○　大便器２個以内　　　　　　　●　大便器１個限り

　　附表３は洗面器の排水量２８㍑／minを排水器具単位数１とし、他の排水量をその倍

数で表したもので、これらの排水器具単位数に基づいて排水管の管径を決定するもので

ある。

（附表３）

　　　　　　　各種排水器具による排水単位数

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 排　水　器　具 | 符 号 | 付　属  トラップ  の　径 | 器 具  単位数 | 排水器具 | 符 号 | 付　属  トラップ  の　径 | 器 具  単位数 |
| 洗面器又は手洗器  〃  〃  〃  浴槽  〃  組合せ流し | ＬaＶ  〃  W.B  K.S  〃  P.S  〃  B.T  〃  C.F | ｍ／ｍ  25  32  25  38  51  38  51  38  51  38 | 1  2  1/2  2  4  2  4  2  4  2 | シャワーバス  浴室組合せ器具  洗濯流し  掃除流し  大便器  小便器  ビデ  床排水  水飲器  汚水流し | S  B.G  L.T  S.S  W.C  U  B  F.D  E  - | ｍ／ｍ  38  38 | 2  8  2  3  6  3  2  1  1/2  5 |

1. 勾配及び流速

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 管きょの勾配はやむを得ない場合を除き、  管きょ内流速が0.6～1.5m / 秒になるように定める。  なお、排水管の大きさと勾配の関係は、次  のとおりとする。 | 排水管の内径  （mm） | 勾　　配 |
| １００ | 2.0／１００以上 |
| １２５ | 1.7／１００以上 |
| １５０ | 1.5／１００以上 |
| ２００ | 1.2／１００以上 |

1. 土被り厚

排水管の土被りは宅地内では200㎜以上、私道内は450㎜以上とする。ただし

　　　上記基準によりがたい場合には管を損傷しないように防護の措置を施すこと。

５　桝および掃除口

1. 桝の位置は、下水道法施行例第８条(8)により次のとおりとする。

（ア）管の起点、終点、合流点及び屈曲点に設ける。

（イ）管の内径、管種及び勾配が変わる箇所に設ける。

1. 直線部においては、管径の120倍以下の間隔で設ける。
2. 桝の構造

（ア）原則としてコンクリート桝、化成品桝、塩ビ製小口径桝とする。

（イ）コンクリート桝、化成品桝の深さに対する桝内径は次のとおりとする。

　　　　　深　600㎜まで　　　　　　　　　　　内径　300㎜以上

　　　　　深　600㎜超　800㎜まで　　　　　　内径　400㎜以上

　　　　　深　800㎜超　　　　　　　　　　　　内径　450㎜以上

小口径桝は桝深 800㎜までは内径 150㎜を使用し、それ以上の深さは内径

　　　200㎜の使用とする。

（ウ）雨水桝は深さ 150㎜以上の泥だめを設ける。

（エ）汚水桝はなめらかなインバート構造であること。

（オ）汚水桝には鉄筋コンクリート製、鋳鉄製、又は塩ビ（化成品）製の密閉蓋

　　　　　を用いること。又、雨水桝には格子蓋を用いることができる。

　　　（カ）車輛が通る箇所の雨水・汚水桝は、鋳鉄蓋を使用すること。

1. 掃除口

桝を設けがたいときは、掃除口を設けなければならない。建物内の台所・浴室等の流入が多い箇所において屈曲点がある場合は、維持管理上、点検口や掃除口を設置すること。

この基準はHaSS　206,6,8,2に従うこと。

６　防臭装置

　　水洗便器、浴場、流し等汚水の流出箇所にはすべて器具トラップを取り付けなけれ

　ばならない。

1. トラップ

器具トラップは検査や掃除が容易にできるもので、封水深 50～100㎜とする。

1. 二重トラップ

いかなる器具でも二重にトラップを設けてはならない。

1. 床排水トラップ

床トラップは取りはずしができるストレーナーを備えていること。

1. ２号トラップ

改造等において器具トラップを設けられない場合は、下流側の適切な位置

にトラップ桝または２号トラップを設けなければならない。

トラップ桝を使用する場合、トラップの口径は75㎜以上とする。

７　通気管

　　施行規則第５条第２項に定めるほか次のおそれがあるときは通気管を設けなければ

　ならない。

1. 排水管に有臭、有毒ガスが滞留するおそれがあるとき。

８　附属装置

1. ごみよけ装置

施行規則第４条に定めるストレーナーの網目間隔は10㎜以下でなければならない。

1. 沈砂装置（サンドトラップ）

土砂を多量に排出する箇所には土砂が下水管に流入しないよう適当な大きさのサ

　　　ンドトラップを設ける。

1. 油分離槽（オイルトラップ）

ガソリンスタンド、自動車修理工場等排水中に多量の油を含むおそれがある場に

　　　は油分離槽を設置しなければならない。

1. 脂肪分離槽（グリーストラップ）

料理店、飲食店、ホテルなどの調理場その他脂肪を多量に排出する食品加工・製

　　　造工場などには脂肪分離槽を設けなければならない。

1. その他の分離槽

　　　　事業所等において毛髪、糸くず、布くず、プラスタ（石膏）、貴金属等の不溶性物

質を排水する場合は、それぞれの不溶性物質に適応した分離槽を設けなければな

らない。

　（ア）ヘア阻集器

　　　　理髪店、美容院等の洗面、洗髪器に取付けて、スクリーンによって毛髪を阻集する。

　（イ）ランドリー阻集器

　　　　営業用洗濯場等からの汚水中に含まれている糸くず、布くず、ボタン等を有効に分離する。阻集器の中には、取り外し可能なバスケット形スクリ

ーンを設ける。

　（ウ）プラスタ阻集器

　　　　外科ギプス室や歯科技工室からの汚水中に含まれるプラスタ、貴金属等の不溶性物質を分離する。

　　　　プラスタは排水管中に流入すると、管壁に付着凝固して容易に取れなくなる。

1. ディスポーザ

食品くず処理機（以下「ディスポーザ」という。）の（単体）は、下水道の維持

管理上次のような影響をあたえるため、設置してはならない。

（ア）野菜くずなどが下水道管渠内に堆積腐敗し、悪臭、管渠閉塞の原因となる。

1. 下水処理場が過負荷となり、汚泥発生量が増大する。
2. 汚水排水槽に流入する場合には、腐敗発酵が促進され悪臭が強くなる。
3. 野菜くずを排出するため大量の水を必要とし、汚水量が増大する。

　ただし、ディスポーザ（単体）と排水処理槽とで構成されたディスポーザシステムは、社団法人日本下水道協会が定める性能基準（案）に適合する評価を受けたもののみを設置可能とする。なお、適切な維持管理を怠ると、公衆衛生面や公共水域の水質保全に問題が生じる原因となることから、設置に際しては、一定の条件で設置を認めており、事前に調整が必要である。

1. 集中排水システム

集中排水システムは排水ヘッダーと呼ばれるもので、宅内で桝を集中化させ、基礎への負担減や工事の簡素化などの利点が多いシステムである。ただし、宅内での適切な維持管理が必要となるため、設置に際しては、一定の条件で設置を認めており、事前に調整が必要である。

　　⑧　排水口空間

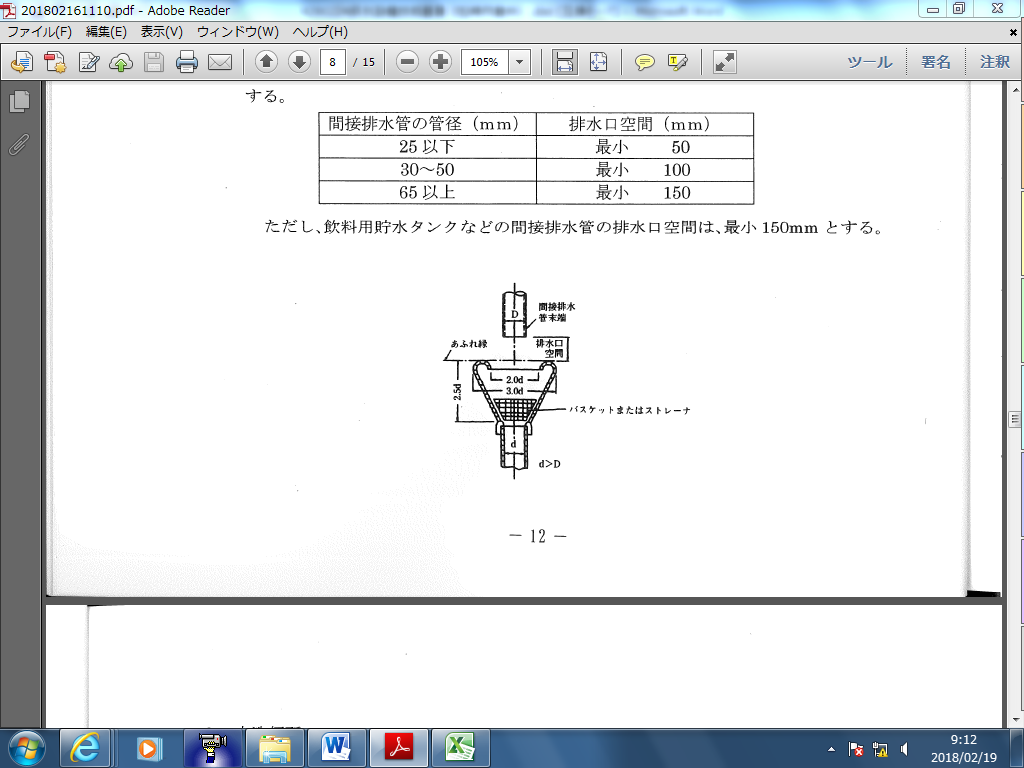
　　　　間接排水とする機器、装置の排水管（間接排水管）は、原則としてその機器・装

　　　置ごとに、一般の排水系統に接続した水受け容器のあふれ縁より上方より排水口空

　　　間をとって開口する。なお、排水管の大きさと排水口空間の関係は、次のとおりと

する。

|  |  |
| --- | --- |
| 間接排水管の管径（ｍｍ） | 排水口空間（ｍｍ） |
| 25以下 | 最小　　50 |
| 30～50 | 最小　 100 |
| 65以上 | 最小　 150 |

ただし、飲料用貯水タンクなどの間接排水管の排水口空間は、最小150㎜とする。

９　水洗便所

　①　大便器及び附属装置

1. 大便器

大便器は２－１①に定めるほか、節水型便器で構造は、トラップを有し強

　　　　　　い吸引力で汚水を排除できるものとする。

1. 洗浄装置

大便器の洗浄装置は１回に付き8㍑以上を流出でき、洗浄管はハイタンク

　　　　　　で25㎜以上、ロータンクで32㎜以上、フラッシュバルブで25㎜以上の管

　　　　　　で共に一時に連続して流出する構造とする。洗浄管と大便器との接続は必ずスパットを使用すること。

1. トラップ

大便器は原則としてトラップを用いる。特に便槽埋立跡等沈下のおそれが

ある場合には、トラップ別の大便器を使用してはならない。トラップの内径は75㎜以上とする。

1. 小便器及び洗浄装置

　　　　小便器は１回につき3.5㍑以上の水を流出でき、小便器の内壁全体を洗い流すよ

　　　うな構造とする。

1. 排便管

　　　　大便器からの排便管の管径は大便器では75㎜以上、小便器は40㎜以上とする。

1. 第１桝の設置

　　　　大便器の壁から3m以内（ビル等を除く）の所に汚水桝を設けなければならない。

　　　　この汚水桝は、内径300㎜以上のコンクリート桝、化成品桝又は内径150㎜以上

　　　の小口径桝とする。

４　施　　　工

１　排　水　管

1. 測量遣り方

排水管の布設は遣り方（丁張り）を設け規定の勾配を正確に測量し水糸を張って

排水管を布設すること。

1. 掘さく
2. 掘さくは桝と桝の間を不陸のないように一直線に根切りをし、一区間同時に

　　排水管を布設し埋戻すこと。

1. 掘さく箇所の土質、深さ、及び周囲の状況により必要に応じ土留を施さなけ

　　ればならない。

1. 排水管の基礎
2. 掘さく基面はタコ等で充分突きかためる。
3. 地盤が軟弱な場合には砂利、栗石で置き換え、基面には目潰砂を入れる等の

　　方法により不等沈下を防ぐ措置をする。

1. 排水管の布設
2. 管はソケットを上流に向け、下流から上流に向って布設する。
3. 枝付管、曲管などを布設する場合には、その方向、勾配に注意し、下水の流

　　下及び管の清掃に支障のないように施工する。

1. 管は管ダレ、不等沈下等凹凸のないように注意しなければならない。
2. 排水管の接合
3. 陶管、鉄筋コンクリート管の接合（ソケット付）はソケット内部下側にモル

　　タルを敷き挿口は管内面が食い違わないようにかつソケット内に管を完全にさ

　　し込むようにていねいに据付け、管目地はとくに底部がおろそかになりやすい

　　ので入念に仕上げること。

1. ビニール管の接合

原則として継手管を用いて接合するが、あらかじめ継手の深さを測り接着面

　　　　　はウエス等で泥、ゴミ等を良く拭きとり接着剤を塗布し、あらかじめ測った継

　　　　　手の深さまで完全に挿入する。なおビニール管はコンクリートとなじみにくい

　　　　　ので桝との接合場所は特に入念に仕上げること。

1. 鋳鉄管、鉛管その他の管

給水工事施工基準又はHass 602,41の規定に従うこと。

1. 管の清掃

管の布設が終了したら管内にはみだした目地モルタル、ゴミ、土砂等を完全

　　　　　に取り除かなければならない。

1. 埋　戻

管の布設後、目地モルタル等の硬化をまち、良質土をもって厚さ20㎝毎に入念

に突きかためながら埋戻す。この場合布設した管が動かないよう十分注意しなければならない。

1. 排水管の保護
2. 排水管の露出はできるだけ避け、やむを得ず露出配管するときは、露出配管部にはVP管、保護管を使用するなど、露出部分の損傷や凍結を防ぐため適当な防護策を講じること。
3. 露出した排水管は水衝作用又は外圧による振動、動揺を防止するために支持金具を用い堅固に固定しなければならない。
4. 道路側溝等への雨水排水管接続

公私境界における側溝内の排水管口は突出しないように補修を行うこと。

２　桝

1. 桝の施工
2. 桝は地下水が浸透し又は汚水が漏水しないよう水密性に留意し、とくに桝と

　　管の接合部は入念に施工すること。

1. 桝に接合する管は桝の内側に突き出さないように差し入れ、接合個所及び桝

　　のブロック目地は漏水のないように十分注意し、施工すること。

1. 桝の内部に水道管、ガス管等他の埋設管を抱き込んで施工してはならない。
2. インバート
3. インバートの高さは排水管の頂点まで盛上げ下部は正しく半円形で、かつ、なめらかであること。
4. 二階等高い所から流下して合流するインバートの対面側は充分高くし、汚水が打ち上がらないようにしなければならない。

３　水洗便所

1. 便槽処理
2. 汲取り便所の改造にあってはし尿を完全に汲取った後、便槽内を消毒、清掃

　　したのち便槽の底を割り浸透水が便槽内に滞留しないようにする。

1. 便槽埋立は砂・砕石粉等で埋立てる。埋立てる際は20㎝毎に良く突き固め

将来沈下の起きないよう施工する。

　　②　浄化槽の処理

　　　（ア）し尿等を完全に汲取った後、槽内を清掃、消毒したのち撤去するか、または撤去できない場合には、各槽の底部に10㎝以上の孔を数箇所あけるか又は破壊し良質土で埋戻し沈下しないように十分突き固めること。

　　　（イ）浄化槽を残したまま、その上部等へ排水管を布設する場合は、槽の一部を壊すなどして、排水管と槽との距離を十分にとり、排水管が不同沈下をしないようにする。

　　　（ウ）浄化槽を再利用して雨水を一時貯留し、雑排水利用（庭の散水、防火用水等）その他に使用する場合は、同様に汚泥の汲取り、清掃、消毒を行い、その後内部の仕切版の底部に孔をあけ槽内の流入水の流通を良くし、腐敗等を防止するなど適切な措置を講じること。

③　器具の取付

1. 便器の据付

便器の一部がコンクリート内に埋め込まれる場合には、コンクリート又はモ

　　　　　ルタルとの接触面にアスファルト等の緩和材を入れる。

便器は所定の位置に正しく堅固に据付け便器の排便口と排便管の中心を一致

　　　　　させるように排便管を埋設する。

1. 排便管の接続

便器と排便管の接続にはフランジを用いるかモルタルパテ等を受口上端にす

　　　　　き間なく詰め込む等漏水のおそれのないように注意しなければならない。

④　タンクの取付

タンクの取付けは水平かつ、くり返し使用に耐えうるよう堅固に取付けなければ

　　　ならない。

⑤　工事完了後の処理

工事完了後タンク、便器、排便管内の砂、モルタル、ゴミ等をていねいに除去し

　　　なければならない。

４　排水設備竣工検査事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検査項目 | 検査個所 | 検　　査　　内　　容 |
| 汚水桝 | 据　付 | 1. 高さは適当か。 2. 蓋と枠の安定はよいか。 3. 桝深に適合した直径の桝を使用しているか。 |
| インバート仕上げ | 1. 仕上げは円滑で強固に出来ており、流水に支障はないか。 2. インバートの高さは適当か。 |
| 間　隔 | １．基準で定められた位置及び間隔で設けられているか。 |
| 雨水桝 | 取付状況 | 1. 取付管が桝の内側に突き出ていないか。 2. 取付位置、高さは適当か。 3. 公私境界における道路側溝内に管の突出がないか。 |
| 排水管 | 流水状況 | 1. 規格製品を使用しているか。 2. 汚水桝との接続は適当か。 3. 排水管の勾配は適当か。 4. 排水管に曲り部分はないか。 5. 管の土被りは適当か。 |
| タンク | 水　量 | １．１回の洗浄水量は適当か。 |
| 据　付 | 1. 製品によじれ、歪及び亀裂等はないか。 2. 建物等にしっかりと固定されているか。 3. 前後左右に傾きがなく正常に据付けているか。 4. 床面よりタンク下端までの高さは適当か。 |
| 引　手 | １． 引き手の機能は正常か。 |
| 洗浄管 | 据　付 | 1. 垂直に据付けてあるか。 2. 支持金具が規定通り建物等にしっかり固定されているか。 3. 水漏れはないか。 |
| 大便器 | 据　付 | 1. 前後左右に傾きがないか。 2. 据付位置が使用上適当であるか。 |
| 小便器 | 据　付 | 1. 建物等にしっかり固定されているか。 2. 便器の据付位置、高さは適当か。 |
| トラップ  取　　付 | 1. 便器に対して垂直に取付けているか。 2. 便器との取付け部、排水管との取付け部はよく固定されているか。 |
| 手洗器 | 据　付 | 1. 建物等にしっかり固定されているか。 2. 水栓と手洗器の位置は正常に据付けられているか。 |
| トラップ  取　　付 | 1. 垂直に取付けているか、トラップの中間ネジは完全か。 2. 手洗器及び排水管との取付けはしっかり固定されているか。 |
| その他 | 床仕上げ | 1. 床面仕上げは円滑にできているか。 2. 床面の高さは適当か。（兼用便器の場合） |
| 給水管 | 1. 春日那珂川水道企業団の規格製品を使用しているか。 2. 立上り部はVLGP管を使用しているか。 3. 露出配管には保温チューブを施しているか。 |
| 便槽処理 | 1. 砂、砕石粉等で埋立し、将来沈下の起きないよう施工しているか。 2. 汲取口の閉鎖はできているか。 |
| 防臭器 | 1. 取付は適当か。 2. 封水深は適当か。 3. 二重トラップではないか。 |
| 舗　装 | 1. 適合した材料を使用しているか。 2. 舗装の厚さは適当か。 3. 表面の仕上がりは適当か。 |

